

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)

大学院学生研究

2021年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院		法学研究科	法学政治学 専攻
研究代表者 (2022年3月現在 のものを記入)	在籍課程・学年		氏名	
	<input type="checkbox"/> 博士前期課程 年 <input checked="" type="checkbox"/> 博士後期課程 2年		大塚 淳	
指導教員	所属部局・職名		氏名	
	法学部 教授		松田 宏一郎	
自然・人文 ・社会の別	自然	・	人文	・ <input checked="" type="checkbox"/> 社会
個人・共同の別	<input checked="" type="checkbox"/> 個人		・ 共同 名	
研究課題	中江兆民の進化論・唯物論・唯心論思想－19世紀欧州政治・道徳思想との比較において			
研究組織 (研究代表者 ・共同研究者) ※2022年3月現在 のものを記入	在籍研究科・専攻・課程・学年		氏名	
	法学研究科法学政治学専攻 博士後期課程2年		大塚 淳	
研究期間	2021 年度			
研究経費 (1円単位)	(支出金額) 100,000円 / (採択金額) 100,000円			

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

中江兆民の思想を以下の作業を行い、その時系列的な変遷を分析する。

- ①『政理叢談』の原典、仏学塾のテキスト(いずれも仏文)との比較。
- ②19世紀フランスの哲学、社会学、心理学、道徳教育論の諸言説についての原典確認。
- ③19世紀後半のフランス思想において、唯心論哲学と唯物論哲学、進化論、カントの受容と解釈についての研究(二と同様の方法で比較)。
- ④兆民の美学及び歴史認識について分析。
- ⑤漢文・伝統思想からの兆民への影響関係を論証。

2021年度は、前年度同様、①②③の作業を行い、政治思想学会での研究大会発表、公募論文応募～査読～採択(内定)、研究奨励賞受賞(内定)を得ることが出来た。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[19世紀日欧比較思想史] [社会進化論] [勃興期の社会学・心理学]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)**< 1 > 政治思想学会研究大会の自由論題発表と『政治思想研究』公募論文応募と採択 (内定)**

申請当時の研究計画から変更し、2021 年度は、政治思想学会研究大会での発表と、同学会の研究誌『政治思想研究』の公募論文への応募、二回に亘る査読対応、最終的な採択内定、原稿のゲラ校正に集中した。

< 1 - 1 > 第 22 回 政治思想学会研究大会での自由論題発表。

●概要：

- ・日時：2021 年 5 月 22-23 日、オンライン開催
- ・発表題目：「三酔人」の「進化論」——中江兆民と一九世紀の「進化論」思想
- ・毎年 5 月に開催の政治思想学会研究大会は、コロナ禍の為、2020 年、2021 年はオンラインでの開催となった。この中で 5 月 23 日の「自由論題」報告「第二会場」にて、大久保健晴教授（慶應義塾大学）の御司会のもと、早稲田大学大学院の小林卓人会員、宮崎大学の松尾隆佑会員と共に、私も発表した。
(発表時間 30 分、質疑応答 20 分)

●発表内容：

< 1 - 2 > の論文の内容に準じる。

< 1 - 2 > 政治思想学会公募論文への応募、査読対応、採択、校正

●概要とスケジュール

- ・年一回（毎年 5 月）に刊行の『政治思想研究』（今回は 2022 年 5 月予定：第 22 号）への公募論文に応募。
- ・註を含めて、32,400 字以内。

●論文題目：「三酔人」の「進化論」——中江兆民と一九世紀の「進化論」思想

・内容：

一、はじめに——問題の所在

今迄、『三酔人経綸問答』論といえば、「洋学紳士」、「豪傑の士」、「南海先生」という三「酔人」の言葉を当時の時局と併せて解説するものが多かった。一方、中江兆民の哲学的な側面については、宮村治雄の『理学者 兆民』に収録の諸論文を嚆矢とする。宮村は「進化論」あるいは「社会進化論」思想との出会いが一八八〇年代の兆民にとって決定的な衝撃を与えるものであった」としている。しかし、宮村の研究も、『理学沿革史』及び『理学鉤玄』を中心に論じられており、『三酔人経綸問答』についての言及は少ない。本論稿では、今まで先行研究では論じられることが少なかった『三酔人経綸問答』の哲学に着目する。

兆民は、仏学塾の翻訳出版活動を通じ、一八～一九世紀の欧州諸思想を参照しつつ、三人の「酔人」を造型した。本論稿では「洋学紳士」、「豪傑の士」、「南海先生」という「酔人」がどのように造型されたのか、それらの「進化論的」表現は何が参照されたのか、それぞれは互いにどのような思想的緊張を有していたのか、考察する。

二、「洋学紳士」——「進化神」と「進化宗僧侶」

「洋学紳士」は名前のお通り、西洋の学問かぶれ、最先端の哲学学説、当時流行の「進化論」的言説をふりかざす人物として描かれる。「洋学紳士」はラマルク (Jean-Baptiste Lamarck) やスペンサー (Herbert Spencer) の生物細胞のアナロジーを用いながら、生物が単純なものから複雑化し、不完全な形が完全なものになっていく「進化」論を展開する。また、スペンサーからは「君相専擅」→「立憲の制」→「民主の制」という発展の「三段階」説を取り入れている。第三段階の「民主の制」では、人間の道徳的完成が志向されている。その一方、コント (Auguste Comte) 的な「文明の発展」という「法則」に即した「予見」によって、社会に大きな混乱が生じないように統制を施す者、「進化宗僧侶」を想定する。それは知的エリートによる社会の統制という問題を孕んでいた。

研究成果の概要 (つづき)**三、「豪傑の士」——「両間」・「恋旧元素」・「癌種」**

「豪傑の士」は人間と動物を同一視する。これは黎明期の社会学者アルフレッド・エスピナス (Alfred Espinas) と同一の視座である。「豪傑の士」には、「洋学紳士」のような人間の道徳的完成という観点はない。また、「豪傑の士」は、日本社会では年齢と出身藩の石高で、「恋旧元素」、「好新元素」の二種が生じたと論じる。ここでは、人間を生物学的な存在としてのみならず、集団的な環境や習慣によって規定されるという観点がみられる。しかも、「豪傑の士」は、「癌腫」という医学のアナロジーで「政治的外科医」として「恋旧元素」の「切除」＝「隔離」を論じる (一九世紀当時は、「癌」は「感染症」であるという認識があり、癌腫を「隔離」する、という知見に基づくものであった)。人間集団は「動物社会」同様、一つの有機体として考えられる。そこには無時間的・無方向的な「種」の存続が含意されている。

また、「豪傑の士」は、“science”＝「理」と“art”＝「術」を峻別した (ギュイヨー経由、J. S. ミル『論理学体系』の影響があったことを論証した) そして、“art”＝「術」は“science”＝「理」に従属するものではない。積極的な価値判断を伴うものであることを論じた。それによって、「豪傑の士」は、知的エリートによる「精神的専制」を危険なものとして、それに対抗する知の在り方を“art”＝「術」に託した存在として造型されたと考えることが出来よう。

四、「南海先生」——漸進主義と「思想は種子」

「南海先生」の位置付けは、「洋学紳士」と「豪傑の士」の両者を批判しながら、それを止揚する存在である。「洋学紳士」に対しては、その短絡的な進歩史観への批判を加える。また、「進化宗僧侶」による社会の統制については、それを「思想の専擅」として退けた。一方、「人々思想の相合して、一圓體を成す者」を想定していることから、「豪傑の士」同様、黎明期の社会学から着想を得て「集合意識」を想定した。「南海先生」はベッカリーア (Cesare Beccaria) から着想を得て、植物のアナロジーで、「思想の種子」が人間の脳髄という「田地」に浸透するのに時間がかかることを論じる。その歴史観は、リニアな進歩や発展段階説ではなく、漸進主義的な発展を志向する。

五、終わりに

一九世紀後半に、啓蒙主義から進化論に至るまで欧州の様々な思想が日本に流入した。兆民は発展段階論、進歩の思想、生存競争等様々なものを包含する「進化論」を二つに分け、『三酔人経綸問答』において、その一つを「洋学紳士」に、もう一つを「豪傑の士」に受け持たせた。即ち、前者には啓蒙主義、ラマルクの「進化論」、コントやスペンサーの「歴史法則 ()」的な思想を、後者にはダーウィンの (生存競争、自然淘汰的) 「進化論」を担わせたのであった。また、それは「理」 (“science”) と「術」 (“art”＝実践知) の区分を内包するものであった。「洋学紳士」は「進化之理」に仕える「進化宗僧侶」を想定し、「豪傑の士」は「術」に基づく「政治的外科医」を自任する。後者の内容は、「癌種」を「隔離」するものであり、これもまた、「洋学紳士」とは異なる種類の知的エリートによる政策提言であった。一方、「南海先生」は「洋学紳士」の短絡的な急進主義を諷めながらも、コント (「進化神」) の漸進主義的な側面は肯定し、「豪傑の士」に対して一定の評価をしつつ、その対外観を「過慮」と諷めた。だが、二つのいずれをも否定しそれに代わるオルタナティブを提供することも、その両者を調停または止揚することも出来なかった。正に「胡麻化」す以外になかった。しかし、兆民があえて「南海先生」をして、「胡麻化」す役割を担わせたのは、この両者の相克を人物として造型する為であったとも言えるのではないか。

< 2 > 社会思想学会研究大会の自由論題発表への応募準備

●概要：

- ・日時：2022年10月15-16日、東北大学にて開催予定 (詳細未定)
- ・発表題目：余は如何にして「マチリアリスト」となりし乎——中江兆民の「唯物論」の形成について
- ・3月30日に、エントリーシートを作成し、提出済 (メール送信済)。
- ・5月末までに、発表要旨を大会事務局に提出予定。
- ・7月10日までに、発表用原稿を大会事務局に提出予定

※この (様式 2) に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差控え期間等を記入した調書 (A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式) を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。なお、成果発表を確認できる資料を合わせて研究成果報告書提出フォームより提出してください (紙媒体等、研究成果報告書提出フォームから提出できない場合は、別途リサーチ・イニシアティブセンターへ提出してください)。

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

※修士論文・博士論文は含みません。

① 雑誌論文 :

- ・ 著者名 : 大塚 淳
- ・ 論文標題 : 「三酔人」の「進化論」——中江兆民と一九世紀の「進化論」思想
- ・ 雑誌名、巻号 : 『政治思想研究』第 22 号
- ・ 発行年月 : 2022 年 5 月 予定
- ・ ページ : 306 - 337 頁 (調整中)
- ・ 政治思想学会研究奨励賞受賞 (内定)
- ・ 確証 - 1 :
- 1 - 1 : 政治思想学会編集委員からの採択メール
- 1 - 2 : 出版元である風行社の再校ゲラの写し (pdf)
- 1 - 3 : 研究奨励賞受賞決定のメール

④ 学会発表 :

- ・ 概要 : 2021 年 5 月 22 - 23 日開催の政治思想学会・第 28 回研究大会の自由論題に、発表者の一人として登壇した。
- ・ 題目 : 「三酔人」の「進化論」——中江兆民と一九世紀の「進化論」思想
- ・ 確証 - 2 : 上記会報の写し (研究大会プログラム : pdf)
http://www.jcspt.jp/events/programs/028_2021_online.pdf